

## 小学校事例5

## 成長の実感

香美町立小代小学校第4学年

## 1 テーマ

成長の実感

## 2 実践のねらい

赤ちゃんを見守る母親の姿をとおして、かけがえのない命を感じるとともに、自分の成長と照らし合わせ成長を実感し、自分を支えてくれた周囲への感謝の気持ちを持つ。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

山間部の小さな学校なので、地域との交流は深く、協力体制も取れている。年間行事の中に地元の保育所や特別養護老人ホームとの交流も位置づけられ、世代を超えた学習の機会が多い。ただ、過疎化、高齢化、少子化の波は確実に押し寄せており、学年の人数構成に偏りが出ている。また、過疎化、高齢化、少子化の波は確実に押し寄せており、学年の人数構成に偏りが出ている。また、実態を調査すると、赤ちゃんにふれる体験や、簡単な育児体験をしたことのある児童は1割にも満たない。そこで、命のリレーを引き継ぎ、未来を担う子どもの育成のために、本プログラムを実践した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・妊婦のおなかに触れて胎児を感じたり、胎内のエコー写真などを見ながら妊婦の話を聞くことをとおして、命の誕生や生命の営みの不思議さを感じさせる。
- ・乳幼児を抱っこしたり、おしめ交換、沐浴体験したりすることをとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持たせる。
- ・乳児と継続的に関わり、成長する姿を感じ取らせる。
- ・自分たちの入学時のビデオを見て、4年間の自分たちの成長を感じ取らせる。

## 【感性を育む】

- ・エコー写真で見ていた胎児が誕生し、新生児という新たな「命」としてふれることにより、命の重みを感じ取らせる。
- ・命のリレーが行われて私たちが存在していることに気づかせる。
- ・これまでの自分の成長を支えてくれた周りの人への感謝の気持ちを持たせる。

## 【想像力の育成】

- ・赤ちゃんとのふれあいから母親の気持ちを押し量らせる。
- ・相手のよさを認め、相手の立場に立つことのできる思いやりの心を育てる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・教員自身の人生の振り返りを行い、命に対する深い感覚を子どもたちに伝えられるようする。
- ・児童の家庭環境等の状況把握をする。
- ・家庭や地域へ、学習についての理解と協力を依頼するとともに、産婦人科医や助産師との綿密な打合せをする。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・体育(保健分野)
- ・道徳

- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・赤ちゃん人形を使った育児の疑似体験をする。
- ・人生最初が一番うれしかったことについての意見をまとめておく。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え理解と協力を求める。
- ・家庭へ「心のノート」への記載を事前に依頼する。
- ・地域の保育所や助産師に協力を依頼する。

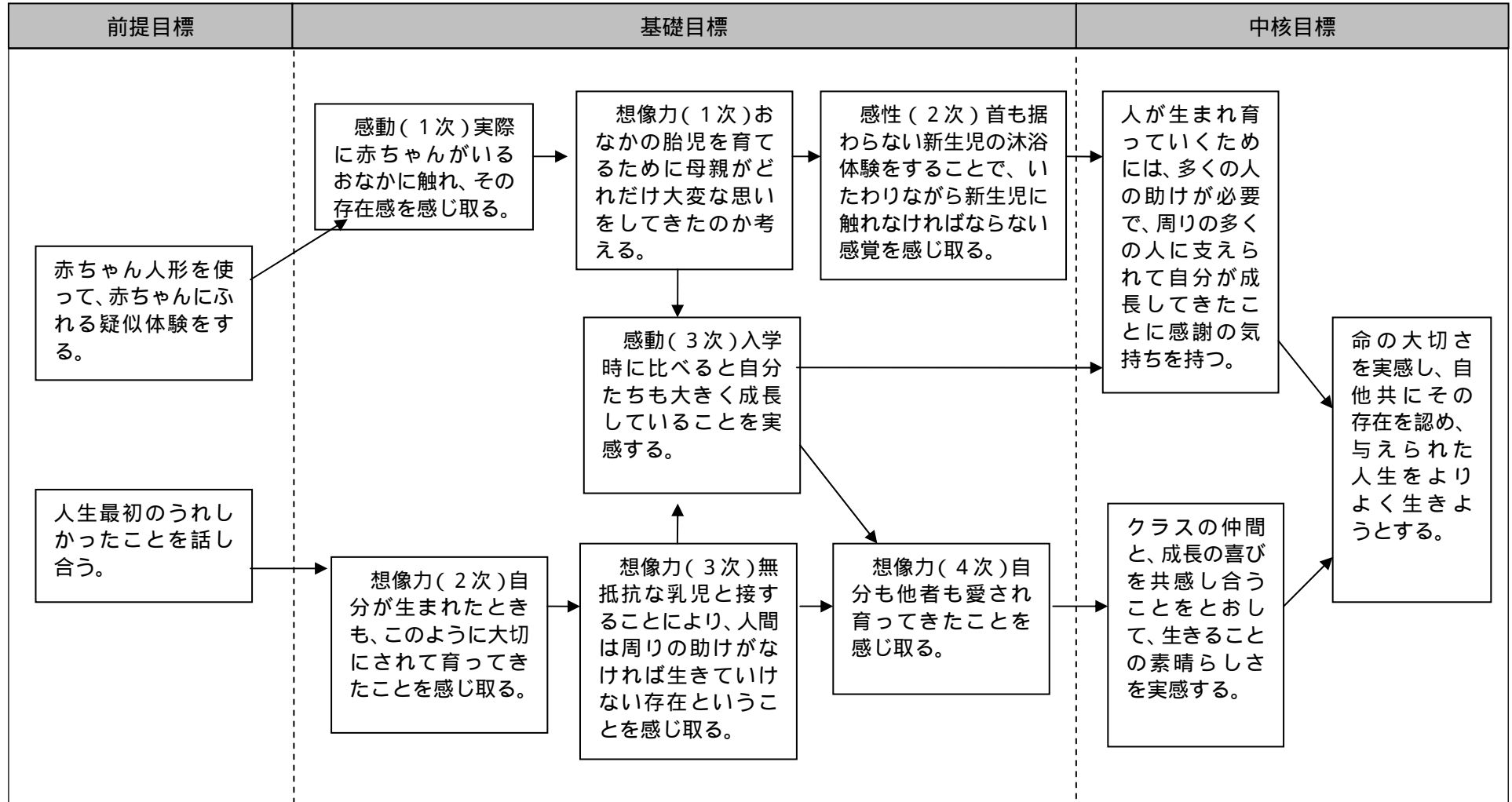
5 本校の実践の特色

- (1) 一年間、継続した育児体験（赤ちゃんの成長の記録をつける）
- (2) 小規模校の特色を生かしたグループ中心の学習
- (3) 地域の強い協力体制（助産師等のゲストティーチャー）
- (4) 人生10年目の児童での実践（2分の1成人式等）
- (5) 4年前の入学式等のビデオを用いての学習（自分たちの成長を実感させる）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	人生最初のうれしかったことを話し合う。 赤ちゃん人形で、赤ちゃんに触れる疑似体験をする。	自分の記憶をたどり、楽しかった思い出について振り返る。	お母さんごっこなどを思い出し、赤ちゃんを育てる母親について考える。	本物の赤ちゃんを抱いたときはどのような感覚なのか考える。	
1次 (2時間)	妊婦のおなかにふれ、胎児が動く様子を感じ取る。 胎児のエコー写真を見ながら妊婦の話聞き、その後、質問をする。	実際に赤ちゃんがいるおなかに触れ、その存在感を感じ取る。 成長していく胎児の写真を見ることが、胎児の成長を実感する。	胎児の心音を聞くことで、胎児も必死に生きていることを感じ取る。 妊婦から直接話を聞くことで、妊娠した時の喜び等を感じ取る。	おなかの中の赤ちゃんを育てるために、母親(自分の母親も含め)がどれだけ大変な思いをしてきたのかを考える。	おなかの赤ちゃんもしっかりと生きていることに気づかせることができたか。 妊娠時の大変さがある、自分たちが産まれてきていることを理解させることができたか。
2次 (5時間)	産まれて間もない新生児にふれる。 助産師を招いて、人の誕生について学習する。 絵本(『いのちは見えるよ』岩崎書店)を読み聞かせしてもらう。	誕生して間もない小さな新生児を抱くことをとおして、命の重みを感じ取る。 助産師から直接、人の誕生や、出産の大変さについて話を聞く。	首も据わらない新生児の沐浴体験をすることで、いたわりながら新生児に触れなければならない感覚を感じ取る。	新生児に負担がかからない抱き方や、沐浴の仕方等命を慈しむ気持ちを持つ。 自分が生まれてきた時も、このように大切にされて育ったことを感じ取る。	新生児の命のぬくもりを感じさせることができたか。 命の誕生に携わる助産師の話を聞いて、その重要性を理解させることができたか。
3次 (8時間)	ほぼ一ヶ月ごとに、成長していく乳児と交流する。 自分たちの成長の様子をビデオで見る。	実際に乳児とふれあう体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持つ。 入学時に比べると自分たちも大きく成長していることに気づく。	母乳だけで大きく育っていく人間に備わった不思議さを感じ取る。 普段は実感しない時間の流れと、成長の実感を話し合う。	無抵抗な乳児と接することにより、人間は周りの助けがなければ生きていけない存在だということを感じ取る。	日々めぐるしく成長していく乳児も、多くの助けを介しながら成長していることを理解させることができたか。
4次 (8時間)	人生10年目に感謝し、自分の成長新聞を作成し、「2分の1成人式」を開く。 二十歳の自分に宛てた手紙を書く。	出生時の体重や、感動したこと、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったこと等、生きる喜びを実感する。 クラス全員で「2分の1成人式」を企画・運営し、クラスの仲間と、成長の喜びを共感し合うことをとおして、生きることの素晴らしさを実感する。	小学校低学年の頃や、保育所の頃の思い出を語り合うことで、共感しながら、成長の喜びを感じ取る。 家族からの手紙を読み、支えられ愛されながら生きてきたことを感じる。	周りの多くの人に支えられて自分が成長してきたことに感謝の気持ちを持つ。 自分だけでなく、友だちも周りから愛され育ってきた存在であることを感じる。 命の大切さを実感し、自他共にその存在を認め、与えられた人生をよりよく生きようとする。	クラスで成長の喜びを共感し合い、協力して「2分の1成人式」を成功させることができたか。 自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。
事後	振り返りカードに記入する。 命の学習をしてきてどうだったかを話し合う。	命の学習の中で一番感動したことをまとめる。	命について感じたことを作文にする。	これからの人生をどのように送っていきたいか発表する。	

7 目標構造図



(凡例) 感性(1次):「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	自己再発見の体験をする。 < 提言 P68 : 教員研修テーマ > ・「私の人生の振り返り」
b	産婦人科の医師や助産師から生命誕生の話聞く。 ・生命の大切さや生命を守るためにどうすればよいかを学ぶ。 ・生命誕生のすばらしさなど大変さを感じ取る。
c	保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について
d	地域に出かけ、高齢者とふれあう。 ・昔の子育てや、苦労話などを聞く。

(2) 指導の概要 (全 23 時間)

内容	
事前	人生最初のうれしかったことを話し合う。 赤ちゃん人形で、赤ちゃんに触れる疑似体験をする。 <span style="float: right;">教員研修 a</span>
1 次 (2 時間)	妊婦との交流等、生命が誕生する過程にふれる。 1 妊婦のおなかに触れる。 ・触った感覚を話し合ったり、胎児が動く様子を感じ取る。また、音を聞いてみたい児童は、妊婦の了承を得て聞かせてもらう。 (1 時間) 2 妊婦の話聞く。 ・妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、気遣いなどを聞く ・胎児のエコー写真を見ながら、成長していく様子を感じ取る。 (1 時間) <span style="float: right;">教員研修 b</span>
2 次 (5 時間)	命の重みと誕生の喜びを感じる。 1 産まれて間もない新生児に触れる。 ・赤ちゃんを抱っこしたり、オムツ交換や沐浴体験をする。 ・赤ちゃんの体重や身長などをインタビューし、まとめる。 (2 時間) 2 助産師に来てもらい、人の誕生について学習する。 ・赤ちゃんがおなかの中でどのように成長していくのか学習する。 ・病院等での、出産時の苦労話を聞く。 (2 時間) 3 絵本の読み聞かせ。 ・交流している母親に絵本の読み聞かせをしてもらう。 及川和男・長野ヒデ子『いのちは見えるよ』2002 岩崎書店 (1 時間) <span style="float: right;">教員研修 c・d</span>
3 次 (8 時間)	成長を実感する。 (2 時間 × 3) 1 成長していく乳児と交流する。 ・約一ヶ月ごとに乳児と交流し、成長を感じ取る。 ・母親とも交流し、育児についてインタビューする。 ・ペットボトルを利用したガラガラなどのおもちゃを作る。 2 自分たちの成長の様子をビデオで見る。 (2 時間) ・学校で記録した「入学式」「運動会」「発表会」などを見て自分たちも大きく成長していることを感じ取る。 ・友だちのがんばりや、優しくしてくれたことなどの思い出を語り合う。

<p>4 次 ( 8 時間 )</p>	<p>成長への支援に感謝し、未来に思いを馳せる。</p> <p>1 クラスで「2分の1成人式」を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境を配慮した上で「 (名前) 新聞」を作り、出生時の体重や、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったことなどをまとめる。 ( 6 時間 )</li> <li>・「自分新聞」を発表しながら、生きてきた 10 年間でみんなを祝う。</li> <li>・保護者の協力で児童宛にお祝いメッセージを書いてもらい、その場で披露する。</li> </ul> <p>2 二十歳になった自分への手紙を書く。 ( 2 時間 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉書大の自分の写真の裏に、二十歳になった自分への手紙を書く。その際、周りへの感謝の気持ちも書くようにする。</li> <li>・その写真は、小さな額に入れ、各自が保管する。</li> </ul>
<p>事後</p>	<p>振り返りカードに記入する。 命の勉強をしてきてどうだったかを話し合う。</p>

9 指導実践

(1) 1次第2時

ア 本時のねらい

妊婦のおなかに触れた経験（前時）をもとに、妊婦の話を書くことをとおして、妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、生活で気を遣っていることなどを知る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

成長していく胎児の写真を見ることで、胎児の成長していく様子を知らせる。

(イ) 感性を育む

- ・妊婦から直接話を聞くことで、妊娠したときの喜びなどを感じ取る。
- ・胎児でも、おしっこなどの「生きる」活動をしながら成長していることを感じ取る。

(ウ) 想像力の育成

おなかの中の赤ちゃんを育てるために、母親（自分の母親も含め）が、どれだけ大変な思いをしているのか考える。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力してくれる妊婦との打合せ

- ・妊娠をしたときの喜びや、妊娠したことによる大変さ、生活の中で気を遣っている点などを話してもらうように依頼する。

(イ) 胎児についての教員研修

- ・養護教諭に話を聞いたり、関係する文献を読んだりして、それをもとに指導案を作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時の、妊婦のおなかに触れた感想を出し合う。 ・パンパンで、すごく大きかった。	・胎児が動くときに触った児童もいるので、そのときの感想を詳しく聞く。
展 開	2 胎児の成長していく様子を図で確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">赤ちゃんのエコー写真を見ながら、お母さんの話を聞こう！</div>	・胎児の図を黒板に貼りながら、これから話を聞く妊婦の胎児はどのような様子なのか説明する。
	3 妊婦の話聞き、質問をする。 ・「おなかに赤ちゃんがいて重くありませんか？」 ・「ご飯を食べられないときがあるっておっしゃっていましたが、その時は何も食べないのですか？」 ・「赤ちゃんは、一日何回動きますか？」 ・「赤ちゃんを産む前の気持ちは、どんな気持ちですか？」	・妊娠したときの喜びや、生活する上で気を遣っていることを話してもらう。また、話の途中にエコー写真を見せてもらう。 ・妊婦の体調を気遣い、無理をさせないように留意する。
ま と め	4 授業の感想を話し合う。 ・お母さんって大変なんだなと思った。でも、妊娠してうれしかったって言ったときは、とても幸せそうだった。	・発言等をしっかりと記録し、児童が自分の誕生について話を聞く活動の際に生かせるようにしておく。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

(ア) 妊婦の体調を気遣い、教室ではなく和室などのリラックスできる環境を設定すればよかった。

(イ) 直接妊婦に質問することにより、児童は積極的に発言をしていた。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	赤ちゃんがいるお母さんのおなかをさわって、赤ちゃんがいることを感じとろう。	
感性を育む	にんぷさんの話を聞いて、お母さんや赤ちゃんの気持ち、また、二人でどんな会話をしているのか考えてみよう。	
想像力の育成	みんなのお母さんが、みんながおなかにいた時、どれだけ大変な思いをしたのか考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



(2) 2次第1・2時

ア 本時のねらい

誕生して間もない新生児に触れることにより、誕生の神秘性を感じ取る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

誕生して間もない小さな新生児を抱くことをとおして、命の重みを感じ取らせる。

(イ) 感性を育む

首も据わらない新生児の沐浴体験をすることで、いたわりながら新生児に触れなければならない感覚を感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・新生児に負担がかからない抱き方や、沐浴の仕方等命を慈しむ気持ちを持たせる。
- ・自分が生まれたときも、このように大切にされて育ったことを感じ取らせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 協力してもらう母親との打合せ

命を大切にする心を育てていかなければならない重要性等を十分に説明し、信頼関係を築いておく。

(イ) 全児童の沐浴体験は、協力してもらう側に多大な負担になるので、特に赤ちゃんに興味のある児童6名のグループを作り実施する。(その他の児童は、学校にて赤ちゃんについての調べ学習を行う。)

(ウ) 出産に関する研修

産婦人科の主催する両親学級等を見学し、新生児についての研修を深めておく。また、産婦人科医、助産師の話を聞き、出産に関する研修も深めておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 赤ちゃん人形を使い、首の据わらない新生児の抱き方を確認する。	・訪問するときのマナーや、新生児に負担のかからない行動をとるよう事前指導する。
展 開	2 新生児を抱っこする。 ・キヤー、小さい! ・ドキドキする!こわい。 ・かわいいー。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生まれたての赤ちゃんを、お風呂にいれよう!</div>	
	3 新生児の沐浴体験をする。 ・すべすべして、やわらかい。	・新生児の安全を第一に考え、母親にサポートしてもらいながら、手伝える範囲で行うよう留意する。
	4 新生児のおむつ交換や湯冷ましを飲ませる体験をする。 ・ さん、おむつ換えるのうまいね。	・活動の様子は、カメラやビデオで記録し、その他のクラスメイトに報告できるようにする。

	5 体験の感想とお礼を母親に伝える。	・授業後に、児童の感想とお礼を母親に届ける。
まとめ	6 本時の学習の感想を書く。	

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

(ア) 予想はしていたが、本物の新生児に触れる体験は、人形を使った疑似体験の何百倍も児童を感動させた。

(イ) 命の大切さを実感させる授業とは、真に児童の心に響くものではないと実感した。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	生まれて間もない赤ちゃんをお風呂に入れたり、オムツを換えたりしてみよう。また、赤ちゃんのやわらかさにふれてみよう。	
感性を育む	新生児に触れることをとおして、どのようなことを感じましたか。	
想像力の育成	自分が産まれたときのお母さんの気持ちを想像してみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 3次第1・2時

ア 本時（次）のねらい

首の据わらない乳児を抱く体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちから親子の情愛を感じさせる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

実際に乳児とふれあう体験をとおして、小さな命をいとおしく思う気持ちを持たせる。

(イ) 感性を育む

首も据わらない生後3ヶ月の乳児を抱くことをとおして、小さな命へのいたわりとともに、命のぬくもりを感じさせる。

(ウ) 想像力の育成

無抵抗な乳児と接することにより、人間は周りの助けがなければ決して生きていけない存在だということを感じ取らせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力していただく母親との打合せ

・乳児が学校に来て大丈夫なのか、交流時間はどれくらい可能なのか、どのような流れで授業を進めるのがよいか等

(イ) 乳児に関する知識を深める

・児童の質問に答えられるよう、教師側も育児書を読んで研修しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 まず、前回沐浴体験を行った児童が抱っこし、2ヶ月の成長を経て大きくなった乳児の感想をクラスメイトに伝える。 ・わあ、めっちゃめっちゃ重くなってる！ ・重い！重い！ ・この前と全然ちがうよ！	・授業を和室で行い、乳児用の布団などを敷いておき、乳児に合わせた柔軟な対応が取れるようにしておく。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">生後3ヶ月の赤ちゃんを抱っこしてみよう！</div>	
	2 生後3ヶ月の乳児を抱っこする。  3 母親に質問する。 ・今の体重はいくらですか？ ・一日何回、うんこをしますか？ ・身長はどれくらいありますか？ ・ミルクはどれくらい飲みますか？	・乳児の負担にならないよう、「抱っこ体験」は2班に分け、前半の児童が終わった後、質問時間にし、その後、後半の児童が「抱っこ体験」をする。しかし、乳児の様子をみて、随時休憩を入れる。  ・乳児の体重等は、次回の活動も留意し、表にまとめたらいいことをアドバイスする。

まとめ	<p>4 授業の感想を発表する。</p> <p>・前に、いとこの赤ちゃんを抱っこして泣かれたので、抱っこするのはいやだった。でも、お母さんが『私でも泣かれるよ。』と言っていたので安心して抱くことができた。抱いてみたら泣かなかった。</p>	<p>・感じたことを自由に話し合い、発表するよう促す。</p>
-----	---	---------------------------------

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 乳児の成長は、教師自身も驚くぐらい著しいものがある。しかし、その成長が自然発生的に起こるのではなく、多くの助けを介していることは理解させたい。
- (イ) 児童の中には、抱っこ体験を嫌がる女児がいた。理由を聞くと納得する面もあり、無理強いをさせまいと思ったが、母親が適切な言葉かけをしてくれ、その児童は抱っこをすることができた。彼女が母親になるための意味のある体験ができたと思う。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	成長していく赤ちゃんをだっこしよう。また、一ヶ月ごとに体重などを記録しよう。	
感性を育む	赤ちゃんにふれることで、命のぬくもりを感じよう。また、赤ちゃんをいたわりながらだっこする理由を考えよう。	
想像力の育成	赤ちゃんの成長を感じることで、自分にも赤ちゃんだったときがあり、いろんな人の助けを受けながら成長してきたことを想像してみよう。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1・2時

ア 本時のねらい

誕生して10年目を記念し、「（児童の名前）の命新聞」を作ることとおして、自分が存在することへの感謝と喜びを感じる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

「の命新聞」を作り、出生時の体重や、感動したこと、頑張っていること、得意なこと、人生の中で一番うれしかったこと等、生きる喜びを実感させる。

(イ) 感性を育む

うれしかった思い出や、感動した思い出を語り合うことで、共感する心を育む。

(ウ) 想像力の育成

- ・自分が成長するために、多くの人にお世話になってきたことを感じ取らせる。
- ・自分だけでなく、友だちも周りから愛され生きていることを理解させる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 家庭環境に配慮した上で、新聞にまとめる具体例を考える。

・様々な家庭環境があるので、小学校中学年の段階では、楽しかった思い出を中心に進めていくよう指導案を作成する。

(イ) 各家庭に新聞作りの趣旨説明の学級だよりを配布する。

・児童からの質問に回答することを依頼する（児童が生まれてきたときの気持ちや、病気や怪我をしたときの気持ち、小学校に入学する時の気持ち等）

(ウ) 現在配慮を要する子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導を充実させる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 自分の中にある、過去の一番楽しい記憶をカードに書き、それをもとに友だちとの楽しかった思い出などを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、極端に悲しい過去の経験がないかアンケート等で調べておく。</li> <li>・児童の低学年の頃のビデオも、内容を厳選して見せる。</li> </ul>
展 開	2 誕生10年目を記念して、新聞の下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『心のノート』を利用し、事前に家族へのインタビューを済ませておく。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">誕生10年目を記念し、自分の命新聞を作ろう！</div> 3 書きたい内容や工夫したい内容を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくの大好物はたこやき！保育所ときは毎回、弁当に入ってた！</li> <li>・小さいときはケーキ屋さんになりたかったけど、今は保育士になりたい。</li> <li>・わたしが産まれた時、すごく小さかったけど、みんなが必死で看病をしてくれたと聞いてうれしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境を配慮し、皆が楽しみながら作業ができる発問を心がける。</li> </ul>





## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本学級の児童は、年度当初の生活アンケートで「友だちに傷つけられたことがある。」と、半数以上が答えた。また、自傷行為にはしる児童もいるなど、決して落ち着いた状態ではなかった。そこで、学級の中に「受容的」・「許容的」・「共感的」な風を入れたいと思い、妊婦とのふれあいから始まり、出産、乳児の成長、自分史の振り返りという活動を取り入れた。これらの活動の目的は、「ものめずらしい実践」というわけではなく、最終目標は、『「命の大切さ」を心の底から実感できる児童の育成』であった。なぜなら、「命の大切さ」を実感したのであれば、自他共にありのままの存在を素直に受け止め、大切にできる心が育つであろうと考えたからである。

本実践が、その目標を十分に果たしたかどうかは分からないが、次の作文がある程度の成果を物語ってくれているのではないかと感じている。

#### 「命の重み」

ぼくたちは、四年生になってから、ずっと命について勉強してきました。このごろは、命という大事なものをむだにする人間がいます。ぼくは、そういう人はきらいです。自ら命をむだにするのは、生きたくても生きられない人に失礼だと思います。

この間、親せきのおじちゃんがなくなりました。「はいガン」という病気でした。年は、四十二才でした。若いし、子どもも二人いるし、まだまだ生きてたかっただろうなと思います。お父さんがお見まいに行くと、おじちゃんは、体にいっぱい機械をつけてとても苦しそうにしていたそうです。苦しくて、しんどくて、しゃべれないおじちゃんは、「機械を止めてくれ」と手でベケをしたそうです。お父さんは、「かわいそうで、見ていられなかった。」

と、言っていました。

おじちゃんは、命がなくなることがくやしかったと思います。でも、おじちゃんが病気になったのは、おじちゃんも、タバコがすきだったからかな？

ぼくのお父さんもタバコをすっています。ぼくが、

「タバコをすったらだめだ。」

と言ってもやめません。タバコのために、命をむだにしてほしくないです。

おじちゃんは、病室で飛行機のプラモデルを作ってたかっただろうなと思います。でも、作れないまま、なくなっていました。今度、ぼくが代わりに作って、おじちゃんのぶつだんにおそなえしようと思います。天国で、おじちゃんが、ぼくの作った飛行機を見て、喜んでくれたらうれしいです。

このごろ、いじめられて自殺する人がよくいます。いじめられてかなしいのかもしれないけど、命をもっと大事にしてほしいです。

子どもを殺す親もいます。子どもを何のために生んだのか、ぼくには理かいかできません。

「子どもを殺すなんて信じられない。」

と、お母さんがよく言います。ぼくも、そう思います。

時どき、お母さんがぼくに、

「元気で生まれてきてくれて、ありがとう。」

と、言ってくれます。その時は、とってもうれしいです。

これからも、かなしいこと、うれしいこと、楽しいこと、いっぱい経験したいです。そして、いろんなことにちょう戦して、自分の力をのばしていきたいです。でも、もっとがんばりたいことがあります。

それは、ぼくはぜったいに、この命をむだにはしません。

## (2) 今後の課題

### ア 授業実践上の課題

人形やビデオなどの疑似体験に比べ、本物の妊婦や新生児に触れる体験は、児童にとっては比較にならないくらい大きな成長を与えてくれる。しかし、協力してくれる側にとっては負担になる面も多く、今回のような協力者を探し出すことは容易ではない。

### イ 家庭・地域との連携についての課題

地域性を考えると、過疎化、少子化の影響で、協力してくれる妊婦の数が不足している。しかも、相次ぐ産婦人科の休業で、出産を地域から離れた所で行う人も増えてきている。数十年前なら、兄弟等も多く自然と育児の雰囲気を感じ取れていたと思うが、本校区には乳幼児に全くふれることなしに成長する児童・生徒も多い。そのような中で、「命」がどのように育っていくのか実感するための体験を、地域が一体となって行っていかなければならないと感じる。そこで、教育や行政などが一体となった体制作りが課題である。

### ウ 学校の組織運営上の課題

デリケートな乳幼児に触れるため、グループ学習等で少人数の活動になることが多い。また、活動場所が違う場合もあり、複数の教師が必要になる。そこで、年度当初からの計画、時間割等の調整等が重要となる。本校では、総合的な学習の時間を利用し複数の教師で活動を進めてきたが、活動時間の延長があった場合など、時間割の調整が難しいことも多々あった。

## 11 参考・引用文献

- ・及川和夫・長野ヒデ子『いのちは見えるよ』岩崎書店 2002